



がっこうだより

枚方市長尾西町2丁目45番1号 TEL050-7102-9176
E-mail nishinagao-e00@city.hirakata.ed.jp
URL <https://hirakata.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=2710079>

枚方市立西長尾小学校

令和6年12月4日号

<西長尾小学校のめざす児童像>

1. 心豊かな子ども（自他を大切に
する、思いやりのある子ども）
2. 深く考える子ども（自ら学び、
創造的な思考を持ち、柔軟に行動
できる子ども）
3. 健康な子ども

平和への決意は、その振舞いで伝わります

—— 目標を達成できた修学旅行

主体的な姿勢は、その人の意思からあらわれ、なされることの価値を方向づけます。修学旅行の取組・活動の随所に、そのことが実感できる場面がありました。

一日目、修学旅行の
大目的である、平和を
つくりゆく決意を表明
するセレモニーのでき
ごと。

核兵器の恐ろしい力
を伝える原爆ドームを
見学し、元安橋を渡り



公園に足を踏み入れると、木々の中にきりりと立った原爆の子の像が見えます。その足元では、外国人の方々が次々と鐘を鳴らし、像に祈っている姿がありました。ちょうどこのときの団体での来訪は、私たち西長尾小学校6年生の集団だけでした。

6年生全員が原爆の子の像に向き合い、その像の立ち姿に負けないうらい凛とした姿勢で立ちました。

セレモニーを始める前からの、その思いのこもった姿勢に、後から続いて到着した他の小学校の児童たちも、離れて静かに見守ってくれています。

代表の呼びかけの後、全員で声を発していく群読が始まりました。平和な世界を築くために、二度と同じあやまちは繰り返さないことを誓いました。

直後に、用意していたスピーカーから伴奏が流れ、「いのちの歌」の合唱が

始まりました。

素朴で誠実な歌声が、公園内に響きます。

付近を歩く人の中には、立ち止まり、見守ってくださる方々もいました。

多くの方々が惹きつけられ、注目していたなか、曲が最初の山場を迎えようとしていた時のことです。

突然伴奏が消えてしまいました。

急きょ、担任の先生が腕を振り指揮を続け、山場を歌い終えました。本当はそこからしばらく間奏が入ったあと、後半の歌が始まるのですが、伴奏はすぐに回復しません。

6年生の誰もが身じろぎもせず、待つ姿に、「この子たちはすごい」と心の中でつぶやいていました。「なんて危機に強くて柔軟な子どもたちなんだろう」と思いました。

20秒ほどでしょうか。周りの人たちもその保たれた空気の中、黙って待っていました。

再開された伴奏は先ほど歌った山場の途中からでしたが、大人が何も指示することなく、自然に途中から歌い始めました。「お見事!!」と心で拍手をしました。同時に、ものすごく成長した姿に、心が温かくなりました。

毎年、修学旅行で、感動の場面に出会いますが、今回はアクシデントに遭ったときに発揮される本当の力というものを垣間見ることができました。

素晴らしい力を備えた6年生のみなさん。ありがとうございました。



移動の新幹線やバスの中でも、主体的にさじ加減を考えた動きができていたように思います。自然にそのようなことができるのは素晴らしいと思います。まさに学年目標の「考動」ができていました（バスレク係の人の、皆を楽しませるための細やかな気遣いやリアクションにも大拍手です）。

宿舎では、楽しそうに会話をしながら移動していても、一般の宿泊客の方々が泊っている部屋のそばでは、自然に声量を落とすなど、他者意識に立った気

配りもでき、宿舎の従業員の方々も、「周りに配慮のできる、いい子どもたちです」と褒めてくださいました。

また、修学旅行のもう一つの大目的である、小学校生活最後にふさわしい、楽しい思い出を「みんなで」つくることにも一人ひとりが力を尽くそうとしていたと感じました。

特に、強く印象に残ったのは、二日目の姫路セントラルパークでの行動班によるグループ活動です。

遊園地には、様々なアトラクションがあり、特にジェットコースターや回転系の乗り物には、その激しさにレベルの差があります。それらが苦手な人もいる中で、どのようにやり取りをするのかが気になっていました。

トロッコ列車のような小さなコースターに乗ったグループがありました。

乗り終えて出口を降りてくるときに一人の児童が少し乗り物酔いになった様子。グループではもう一回乗ることになったようでしたが、酔った人が少し座って休みたいことに気づいた一人が他の人に声をかけ、一緒にそのコースター入口横で座って待っていました。

苦手な人が乗りたくないことを抵抗なく意思表示でき、同じグループの人もそれを受け入れられる関係が成り立っていました。

乗りたくない人が一人で待つのではなく、必ず誰かが一緒に待っている状況は別の行動班でも見られました。



帰校後、先生方同士で振り返りをしました。その際にその話題が出て、どの先生も同じような光景をそれぞれ目にしていたことが交流できました。

みなさんは思いやりのある優しい行動ができる素晴らしい人たちです。自分の判断や行動に自信を持ちましょう。



☆日々の学校の様子は
枚方市立西長尾小学校ブログ
をごらんください。QRコード→

